



興讓館野球部OB総会 平成28年8月15日 於ホテルサンルート米沢

今年も全国的に、長引く熊本地震や鳥取地震等いろいろな自然災害の多い年でありましたがOB会員の皆様には悪なくお過ごしのことと拝察いたします。

本年も我が野球部OB会会報第26号の発刊の時期となりました。この会報も平成3年に第1号を発行して以来何とか年1回会員皆様の協力により途切れることなく26号に達しました。寄稿してくださった多くの方々と編集にあたる事務局長に心から感謝申し上げます。

さて、今年は残念ながら2件の計報をお知らせしなければなりません。平成10年から17年まで本会の会

小野 隆夫
興讓館野球部OB会長



会報26号に寄せて

興讓館野球部OB会 会報

第26号

- 発行日／平成28年12月10日(土)
- 発行者／小野 隆夫
- 発行所／〒992-0054
米沢市城西4-4-16
井上 恭男
☎ 0238 (22) 4078
- 印 刷／株羽陽印刷
☎ 0238 (23) 0467

長を務められました昭和28年卒の岩間嘉昭氏が3月にご逝去なされました。長い間当会の役員、会長としてご尽力いただきました。また昭和27年卒の高橋廣氏も1月に他界なされました。奥様より知らせと同時に多額のご寄付を会に頂きました。以前からの会費納入や会報への寄稿等で多大のご協力をいただきました。お二人のご冥福を心からお祈りしたいと思います。

次に今年度は第1回目を平成24年に開催しました役員及び学年代表理事会の第2回目を開催いたしました。本会の運営全般についていろいろなご意見をいただき有意義な会であつたと思っています。今後も継続してまいりたいと考えています。

総会につきましては本年度もお盆の開催ということで8月15日(月)約30名の参加者で行いました。事務局提案の決算、予算等のご承認をいたしました。せっかく帰省時の開催としましてのでもう少し参加者が多ければと思っています。

今年も総会の日の午前中は、現役1、2年生とOBとの試合そして午後はOB(現役3年を含む)同士の試合が行われました。私も初めて午後の開会行事から参加してまいりましたが大学生を中心参加者の多いのに驚きました。現役の生徒も参加するということでご父兄の方も多数観戦されていました。若い方が中心の事業かもしれません、世代を超えたOB会の交流としておおいに意義のあることと感じてまいりました。

OB会としては金銭面の援助だけでなくできるだけ試合を見て応援して行きたいと思います。その意味でグランドで応援するときのOB会用の帽子を10個購入しました。春、夏、秋、の大会にて母校の試合を応援するときに着用していただこうように考へています。

最後になりますが、会員の皆様には年会費納入等いろいろな面でのご協力よろしくお願ひ申し上げます。

皆様には常日頃より野球部へご支援ご協力を賜り心から御礼申し上げます。

多くの野球部員はプロ野球選手にあこがれて野球を始めたと思いますが、中でも本校生が目指すべきは大先輩皆川陸雄投手ではないでしょうか。

「興讓」第51号の中で、高野謙先生が皆川投手について「年間30勝以上を達成したのは、昭和43年の皆川以後日本球界を通じて出現していない」「プロ入団15年目、普通なら盛りを過ぎている年齢で最高の記録を作ったのはすばらしい」と語つておられます。確かに近年では平成25年元楽天手中投手の24勝が最高でした。また、皆川投手と同じ時を過ごされた高野先生は「華やかな成績の裏に、どれだけ努力を重ね、人格の向上をはかつていたか」と話され、次のような内容を書かれています。最優秀防御率投手となつたこの年、皆川投手は腰骨にひびが入り、その故障を抱えたまま試合に出続け偉大な記録を成し遂げた。高校時代、県大会決勝の勝敗を決める大事な場面でボーケの判定を受け監督が主審に理由を聞こうとした時、「今のはボーケでした」



ご挨拶

校長 岸 順一

と話し、監督はそのフェアプレー精神に涙が出るほどの心がけしかったと。

現在、史料室に「一球入魂」「不忘恩」「自捨不惜身」のサインが残っています。自分がなすべきことに対する手を抜くことなく立ち向かい、受けた恩を忘れず身を惜しまず努力する姿勢は、確かに、己を磨き、世のために近くそうとする「興讓の精神」によるものだらうと思います。

現在、生徒たちは限られた時間を工夫しながら地道な練習を重ね、文武両道に頑張っています。技術を向上させ試合に勝つことはもちろん大切ですが、同じ目標に向け仲間と協力し努力することにより、自主性や協調性、責任感といったものが生まれ、ともに困難を乗り越える経験が後の人生を豊かなものにしてくれます。生徒達には野球部創設以来、諸先輩が築き上げてこられたすばらしい伝統を受け継ぎ、皆川投手のような「興讓の精神」を体現する人物に育つてほしいと願います。皆様には今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げ、ご挨拶とします。



高校野球に思うこと

(昭和46年卒)

五十嵐 俊 隆

全てのスポーツにおいて審判は必要不可欠な存在である。しかし、その判定がすべて完璧でないことは明らかである。

近年、日本プロ野球においてはホームランの認識にビデオが導入されたり、マーチリーグにおいてはチャレンジ制度が設けられ、審判の判定はビデオで確認されて覆されることが多々ある。それは、人間の眼が如何に誤認しやすいものであるかを示している。そして判定の誤りが試合終了後は明らかになつても、勝者・敗者どちらにも後味の悪い感情を残すだけに他ならない。

高校野球を検証してみると、今年の夏、甲子園大会においてのプレーである。ランナー2塁、3塁で、塁ランナーが3塁・本塁間に挟まれ、タッチされたにも拘らずアウトの宣告は無く、その後、本塁に走り込み、1点が入った。審判から見えてなかつたのかわからぬが、ビデオを見ればタッチされたことは一目瞭然であり、判定の誤りはあきらかであった。インターネット上でもその話題で盛り上がりつたことは記憶に新しい。「疑惑の判定」と。選手は審判の判定に対し、執拗な抗議はしないことが原則であると教えられたが、本当にこれでいいのだろうか? 明らかに間違つたジャッジは即座に訂正される方法を導入すべきではないだろうか? 明らかに間違つたジャッジは即座に訂正される方法を導入すべきである。地方の予選と違い、甲子園でのプレーは記録員の方がビデオで確認できるはずであるし、選手・審判・応援団・観客の誰にとつても苦い思い出が残るだけである。テレビで観戦している人には、ビデオによつて、即座に判定が誤りであ

ることが明らかになるのだから。

このような場合において、高校野球が理念として掲げる「悲運にも屈せず」の精神が選手を救うとは、到底、思えないし、教育の一環であるならば、なおさらである。

もうひとつ不思議に思うことがある。高校野球において、球場内での飲酒は禁じられている。これは全国的なものかと思つていたが、そうでは無いようである。甲子園のネット裏席ではピンクのTシャツを着た女の子が生ビールの樽を背負い、忙しく動き回つている姿がテレビでも映つている。大手ビール会社に勤める知人に聞いたところ、本社に確認してくれ、甲子園でのビール販売は事実とのことであった。何故だろ



う？都道府県ごとに判断が任されているのかな？だとしたら、山形県での禁止の理由は何だろう？考えると眠れなくなる！自分はただ野球観戦でビールが飲める甲子園が、羨ましいだけなのだ。

話は変わるが、現役の頃、大企業に勤められている大先輩が、夏の予選に臨む我々のベンチを訪れ、こう言られた。「甲子園に出場する時は100万、200万でも出すから。」と。聞いていた我々は思ったものである。「甲子園に行ける準備不足の大失敗を悔やんで、2回戦酒田商にも、1

いよナ」と。

私はしがない年金生活者であり、微力ではあるが、興譲館の甲子園出場を祈り、可能な限り協力させていただきます。

ト4 「120%の力を出した」先輩チームの流れを受け、1回戦の鶴岡工戦、遊

撃手で出場させてもらつたが、6-4-3ダブルプレーのはずが、雨で指がすべつて暴投。楽勝の試合は、9-8の辛勝。守備だけで

ト4 「120%の力を出した」先輩チームの流れを受け、1回戦の鶴岡工戦、遊



ご縁に生きる

(昭和56年卒)

鈴木利実

高3春の東京遠征。東大

高1秋の県大会、夏バス

野球部、都立の星といわれた東大和高と合同練習の機会を得た。浪人生の多い東大は、1年生は基礎体力作りに励んでいた。120名と大所帯の東大和高、佐藤道輔監督は「公平な練習機会」を実践され、正選手も補欠も、守備は3球、打撃練習も同数打つ。「一球勝負」の厳しさを学んだ。

今秋福大野球部は、南東北リーグ王者となり、東北地区代表決定戦に進出。富士大の阪神ドラフト2位小野投手からも下手からくせ球で好投をみせた。来春は、リーグ戦で優勝し、久し振りに駒を進めてほしい。

母校の活躍は本当に嬉しく、嬉しかった。

高3夏、皆川先輩の激励を受け大会に臨む。相手は、東海大系列校になつたばかりの東海大山形。「まさか負けないだろう」心の油断は恐ろしい。初回の3点が重くのしかかり、2-3敗戦。私の高校野球は終戦となる。

一浪後、隣県の福島大に進学。佐久間則行先輩、鈴木亨先輩の練習を見に行つてしまい、すかさず勧誘さ

けで何とかレギュラーの座を保っていた。打撃理論も勉強すべきだった。投手心理も読み、やるべきことは

山形東に敗れたもののバスト4。荒谷投手はじめ先輩方のお陰ではあつたが、誇らしく、嬉しかった。

「1年生からレギュラーナの打てない」センスのない自分。今思うと、体力増強を図るべきだった。ひ弱で肩も弱く、球さばきだ

けで何とかレギュラーの座を保っていた。打撃理論も勉強すべきだった。投手心理も読み、やるべきことは

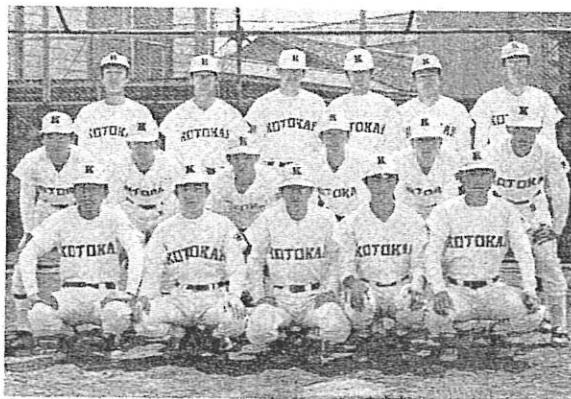
イチロー選手は、愛工大名電時代、1日10分間の素振りを3年間続けたこと

れ入部。一生涯の友を得た。教授が名ばかりの監督で、主将が監督兼任で打席からサインを出す姿は脳裏にやきついている。プレーイングマネージャーは、現在の私の仕事の原点にもなっている。

たと語っています。このよ
うな努力を積み重ね、21世
紀枠で、米沢興譲館が春の
甲子園出場の夢の実現に向
け、一OBとして、応援し
ております。



所在地
米沢市西大通
1丁目5番地27号
創立
明治19年9月
学校長
大井 魁
部創立
明治33年
部員数
34人
部長
岩木信孝
監督
今 英三郎



米沢興譲館

優勝候補を倒す力も

校歌
作詞
作曲
細谷一郎
大嶺の君妻を見れば
青空にたななる
雲白く望みぞそる
ああ興譲興譲のわれらが胸に

二
わが校の歴史は古く
人あまたあと繼ぎて
業につき努めをなせり
ああ興譲興譲のわれらも励め

● ○ ● ○ ○ ○ 最近の戦績
3 12 0 11 31 12 小
1 6 1 2 9 0 0 荒 砥 国
酒田商 東海山形 赤湯園芸 米沢工

戦力
効率のよい練習法をしている。守備は安定している。外野は強肩で、俊足ぞろいだ。ただ、走者がいるとき、送球の判断を誤ると、内野陣が乱れることがある。一、二番の出塁率が高く、八、九番が打つと大量点に結びつく。強豪になればなるほど闘志を燃やす。優勝候補を倒す力を秘めている。

時間が経つのは早いもので、興譲館を卒業してはや30年以上の月日が流れてしましました。特に在部当時、ご一緒させていただきました諸先輩、後輩の皆さん、お元気ですか？

まずは、会報をお読みのOBの皆様で、私のことをご存知の方はごくわずかだと思いますので、簡単に自己紹介をさせていただきます。

私は、生まれは米沢市なのですが、幼少時に両親の仕事の都合で南陽市に移り住み、赤湯小学校、同中学校を卒業後、いわゆる「汽車通」で、3年間興譲館にお世話になりました。昭和61年に当校を卒業後、都内の大学を卒業し、当時、バブルが終焉を迎えるとしていた平成初期の「超売り手市場のフォローの風」に乗り、ある準大手ゼネコンに



近況報告と 当時の思い出

(昭和61年卒)

後藤 篤也

就職しました。最初の赴任地の新潟市をかわきりに、在職13年の間、横浜市、仙台市等と7回の転勤を重ねたのち退社。平成15年に米沢市に家を構え、現在、家族とともに生活しているという状況です。

さて、私が在部時のことでは、とにかく日々の練習が超ハードだったということです。当時の練習環境といえば、練習中の水分補給はタブーで、プールで泳いで肩を冷やすのは勿論厳禁(いまだに私、かなづちです)、とにかく、「気合」、「精神力」、を前面に出した「根性野球」だったと記憶しています。

例えば、練習試合などで「気の抜けたプレー」があれば、試合後にベース間の無制限ダッシュ、又は無制限長距離走が待っていたも

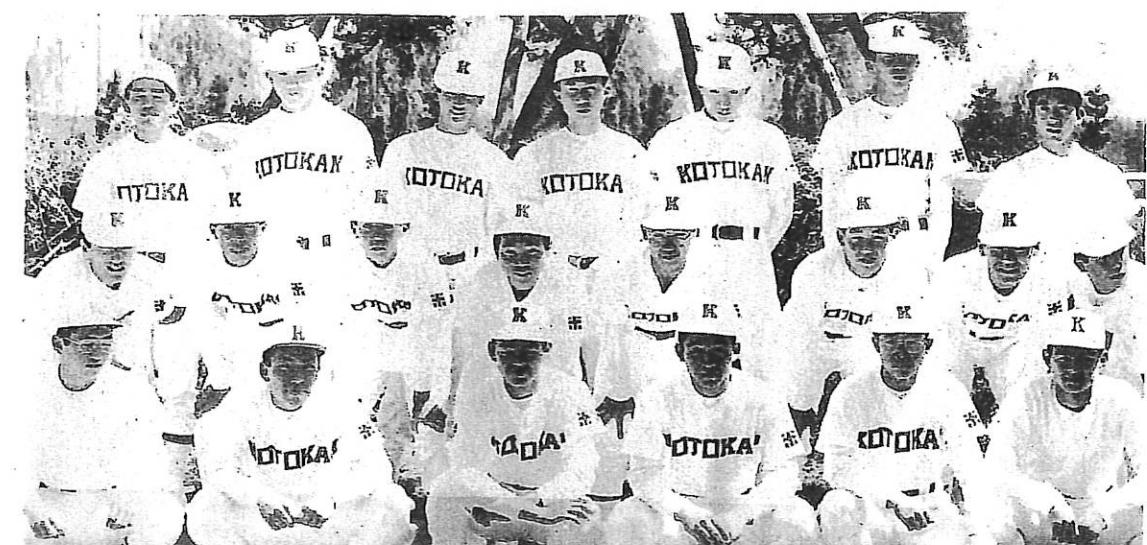
のです。（水分補給は許されないので、顔洗い用のバケツのドロ水、用水路の水、トイレの手洗い水、よく隠れて飲んだものでした。）

アメリカンノック（ライト、レフト間の延々続くノック）では記憶を失い、私自身、倒れましたことありました（笑）。とにかく「根性第一」、今の選手たちの練習光景とはちょっと違つたものだつたように思います。

当時お世話になりました恩師の橋間先生（監督）は、東京6大学の野球部出身で、私たち選手以上に体力があり熱血漢の方でした。試合前のシートノックでは力が入りすぎ、よくオーバーフェンス（ホームラン）していたものです。（あの飛距離はすごかった・・・）倒れそうになる程の苦しい練習も「楽勝、楽勝」の一言で片づけられ、我々選手も「負けていられるか！やつてやるぞ！」というような感じの日々でした。今思えば、それもいい思い出であります。橋間先生には本当に誠心誠意ご指導いた

だきました、感謝の気持ちで一杯です。またある時は、同期の誰かが先輩に挨拶をしていました。練習後に先輩に告げられ、連帶責任だということが明かりの中、300Mのトラックを上位に入らない限り延々走り続けるも結構あつたものです。こんな理不尽（？）な経験も、社会に出て大いに役に立つたといふことは間違ひありません。そんなこんなで、入学当時20名くらい在籍していた同期の部員は、ひとり、ふたりと辞めていき、3年の夏を迎えるときは10名になっていました。それだけに、最後の夏まで残った10名の団結力は強く、30年以上経過した今でも、毎年酒を酌み交わすなど、本当の仲間ができたことは、私にとても何にもかえられない一生の財産です。

もうひとつ思い出は、私が2年生の夏の大会で、山形中央に準々決勝で敗れ（この年ベスト8）、お世話になった先輩に対して、申



あの甲子園のアルプススタンドで応援できることを心より願っています。

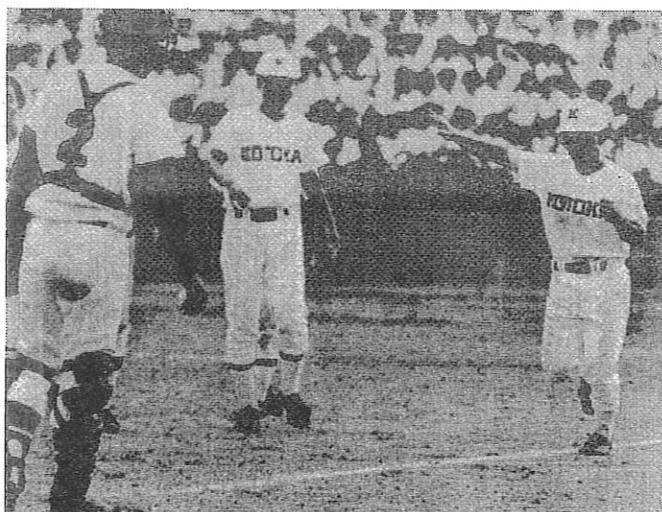
これから後の後輩たちのまますますの健闘に期待しています。頑張ってください。

し訳ない気持ちでいっぱいになつた時のことです。自分が3年生最後の夏よりも、明確に記憶に残っています。今になると、勝った時の記憶よりも、負けた時の記憶が鮮明に残っています。今、米沢に戻り、あの頃の話で地元の先輩、後輩とお酒を酌みかすこと、楽しみの一つです。

現在、私の長男が野球部（1年生）にお世話になります。特に、先日行われた大会に出場した際に、背番号「4」、ポジション「セカンド」、打順「3番」と息子が私の現役当時とまったく同じ状況になつている

ことに気づき、当時の自分と重ね合わせ、感無量な気持ちでいっぱいになります。小、中学校と、野球のおつかけ（応援）をしてきたわけですが、高校での応援は、これまで以上に力が入ってしまいます。無意識に当時を思い出しているのだと思います。

最後になりますが、近い将来、各地でご活躍されているOBの皆様と一緒に



サヨナラ　9回裏米沢興譲館無死満塁、押し出しで三塁走者後藤ホー
ムへ。捕手清川

興譲館、粘り勝つ

酒田工の満塁策実らず

米沢市営球場

酒	△一回戦第2試合
田	100
工	000
米	200
沢	000
興	300
譲	65

(印)興譲館の接戦はあつた
い帝國銀行が勝った。九回、興
譲館は先発の後藤が二塁打、三塁
打のバントが野瀬を説いて、無死
三塁。酒田工は満塁。次
の佐藤後藤球を選び、押し出
しださず勝ちした。酒田工も
少しあくまで重ね、一時

（印）帝國銀行はあつた。
一ドしたが、及ばなかった。



野球の醍醐味

（平成2年卒）

北村雅哉

小学4年生の息子は、親の思惑通り野球好きとなり、今は地元の少年チームに入部し頑張っている。「投げる・打つ・守る」の基本がまだ身についていないのに、言うことは一人前。その姿が自分の小学生時代と重なり、思わず笑ってしまう。

親がやつてきた野球を息子にもやらせたい、という思いは、私の我儘かもしれない。野球をやるということがだけで人生がバラ色になることはないし、野球以外に時間を費やした方が、将来のためになるかもしれない。

しかし、私自身の経験として、野球を続けてきたことが、色々な場面でプラス作用していることは間違いない。息子には、これからの長い人生を有意義に過ごすための一つのステップ

として、野球を続けて欲しいと考えている。

さて、野球には独特的の醍醐味がある。それは、様々な場面での「駆け引き」である。自分のチームが有利に試合を進める事が出来るよう、ピッチャーとバッター、バッターとキャッチャー、監督同士、他にも色々な場面で僅かな時間のうちに駆け引きが行われる。僅かな時間といえども一発勝負ではなく、ピッチャーとバッターであれば

フルカウントプラス一球という、ある程度時間をかけた駆け引きもある。相手が何を考え、どのように仕掛けてくるのかの読み合いであり、これこそが野球の醍醐味であると思う。

実際にプレーする選手だけではなく、球場やテレビで観戦している野球ファンも、超一流選手になつたよ

うな気持ちで、駆け引きに参加する。その駆け引きに内容が選手と合致すれば喜び、更にそれが上手くいけば、自己満足に酔いしれる。また、駆け引きの内容が選手と違つたとしても、自分の読みが当たつた場合は、「俺の方がいい読みをしている」と、それはそれで自己満足に酔いしれる。

実際のプレー中の駆け引きは自分たちの試合の勝ち負けに直結するため、駆け引きに負ける回数を極力減らさなければならない。観戦中の駆け引きとは訳が違う。駆け引きに勝つには、それなりの野球の技術が必要であるため、日々の練習も重要になつてくる。

野球の駆け引きの経験、これは日常生活でも役立つている。特に仕事では、お客様との交渉や上司・部下との関係において、それは日常茶飯事であり、上手くこなしていかないと評価を落とし、会社でのポジションが危うくなる。駆け引きで相手より優位に立つには、経験や知識で相手を上

回る必要があり、それには野球と同様、日々の努力が重要になる。

他のスポーツでも、体力や精神力・忍耐力を鍛えることは出来る。しかし、息



故郷米沢

(平成17年卒)

小野裕介

高校卒業後すぐ米沢を離れ、大学、専門学校、社会人を経て、十年半ぶりの昨年の秋に米沢に帰つてきました。今は実家の精肉店を継ぐべく父のもと働いています。今年、楽しみであったOB戦、OB会に、数年ぶりに参加することできました。OB戦では捕手でボールを捕つた時の重さとグローブの音、打者で打つた時のバットの金属音と手に伝わる感覚、懐かしさと硬式で野球をするワクワク感を久々に感じる事ができました。これだから野球は

子には、野球を始めた以上、野球でしか学べない事や醍醐味を体感し、それを確実に習得して、今後の人間の糧として欲しいものである。

上、野球でしか学べない事や醍醐味を体感し、それを確実に習得して、今後の人間の糧として欲しいものである。視野を広げる機会になりました。ぜひ後輩の皆さんには、今の仲間を一生の仲間にしてもらいたいと思います。必ず力になってくれるはずです。

しかし、ここで問題になるのが興譲館の特徴です。それは進学により全国バラバラになってしまふ事で、私が今思うことは「仲ができました。来年もぜひOB戦から参加したいと思つております。

さて、米沢に戻りこの十年を振り返ると、高校時代の野球仲間の存在の大きさを感じずにはいられません。大学、専門、社会人と沢山の仲間にはもちろん出会いました。しかし、高校時代の仲間はやはり格別です。社会人で壁にぶつかり、相談などすると何度も貴重なアドバイスをもらう事ができました。違う業種で活躍している仲間の言葉は、自分では見る事ができない角度で物事を見ていたりします。とてもいい刺激になりました。

今シーズンを振り返つて

監督 多田貞春

◆1次予選
（秋季地区大会）
チーム2016
（秋冬季地区大会）
◆1次予選
（延長12回）

今年は、本校130周年ということで、盛大に記念式典が行われました。野球部の歴史を紐解いてみると、明治34年にその始まり

が集まれる場所や機会を作りたい」です。具体的にはまだ全然わかりません。OB戦はほんとにいい機会だと思いますので、まず声がけからしてみたいと思います。何年、何十年先になるか分かりませんが、一緒に野球した仲間全員ですき焼きの鍋を囲むのが、実は自分の密かな夢です。

米沢に戻ったからには、興譲館野球部を今まで以上に応援していきたいと思います。もちろん機会がありましたら球場にも足を運びます。野球部の活躍を心から楽しみにしています。

さて、今年の興譲館は、1年生11名（マネージャー2名）、2年生7名（マネージャー1名）、3年9名（マネージャー1名）の計27人の活動となりました。1年生の入部者数が、3年ぶりに1年生大会の単独出場が可能な人数となり、その1年生大会では、県大会に出場することができます。野球部の出場することができました。また、新顧問として本校野球部OBの小林健也先生をお迎えして、野球経験者が3名在籍するという私立学校並みの顧問陣体制でのスタートとなりました（名簿有り）。

今年は、本校130周年と、明治34年にその始まり

の定期戦（今年度は8月21日に開催しました）は、現まで続く伝統行事となっています。先輩方の中には、定期戦の思いが残っています。いらっしゃる方も多いと思います。

興讓館野球部OB会会報

◆2次予選

対 南陽
長井 0—10 23—6
(6回コ)

◆3次予選

対 米沢東
（延長15回）
6—5 3—6
(6回コ)

昨年の秋季大会においては、経験・実力とも乏しく、最後まで粘りましたが、一昨年に続き秋季県大会への出場を逃してしまいました。春季大会、そして夏の甲子園大会を考えると、秋に県大会に出場し、県のレベルを知るとともに、多くの公式試合を経験しておきたかったのですが、実現できませんでした。

その一方、県大会出場を逃し、早い時期から基礎練習と体力トレーニングを開始することができました。新チームのスローガンを「熱烈峻厳」と掲げ(以前のチームでも掲げたことのあるスローガンですが)、厳しく、貪欲に、そして熱く、野球に打ち込むことで、精神力の強化を徹底しました。

冬場の練習は、限られた時間と場所を効率よく活用して取り組み、スイング力の強化を図ることができました。また、今年は、例年に比べて積雪が少なかったこともあり、早期からグラウンドでボールを使うことができました。そして、今春も、福島県への日帰り遠征や県内チームとの練習試合を行い、春季大会を迎えることができました。

昨年に続き秋季県大会へ出場を逃してしまいました。この県大会において、村山地区の高校と対戦し、接戦を制した経験はとても大きかったように思います。しかし、2回戦の酒田南戦では、連戦に対する体力のなさや勝負どころの弱さを露呈し、私立強豪校との力の差を見せつけられる敗戦となりました。

夏の選手権大会へ向けた練習は、打倒私立を意識して、自分たちの強みとしたい機動力と勝負強さの強化を掲げ取り組みました。ただ、今年の3年生も、日常生活においても「野球人」となることをを目指して行動してきました。興讓館での野球を全うした彼らなら、大学進学後も、そして、社会に出てからも活躍してくれる信じております。

戦いとなりました。目標に掲げた打倒私立を胸に精一杯戦いましたが、力及ばず、敗戦となりました。

対 九里学園 0—7
(7回コ)

◆2次予選

対 高畠 10—1
(7回コ)

置賜地区第3代表として県大会へ

◆1回戦

対 羽黒 0—2
(7回コ)

◆秋季県大会

3年生9名が抜けて、18名となつた新チームは、3年ぶりに秋の県大会に出場することができます。しかし、新チームも、勝負所の弱さや野球そのものに関する知識の欠如、さらには、基礎体力や野球に対する情熱が乏しいのが現状です。

◆1次予選

対 高畠 11—4
(7回コ)

◆2次予選順位決定戦

対 置賜農業 5—13
(7回コ)

春季地区大会

昨年に続き春季県大会へ出場を逃してしまいました。この県大会において、村山地区の高校と対戦し、接戦を制した経験はとても大きかったように思います。しかし、2回戦の酒田南戦では、連戦に対する体力のなさや勝負どころの弱さを露呈し、私立強豪校との力の差を見せつけられる敗戦となりました。

◆1回戦 (米沢)

対 山形商業 8—7
(5回コ)

春季県大会

昨年に続き春季県大会へ出場を逃してしまいました。この県大会において、村山地区の高校と対戦し、接戦を制した経験はとても大きかったように思います。しかし、2回戦の酒田南戦では、連戦に対する体力のなさや勝負どころの弱さを露呈し、私立強豪校との力の差を見せつけられる敗戦となりました。

◆1回戦 (羽黒)

対 南陽 4—7
(7回コ)

秋季地区大会

昨年に続き秋季県大会へ出場を逃してしまいました。この県大会において、村山地区の高校と対戦し、接戦を制した経験はとても大きかったように思います。しかし、2回戦の酒田南戦では、連戦に対する体力のなさや勝負どころの弱さを露呈し、私立強豪校との力の差を見せつけられる敗戦となりました。

◆1次予選

対 南陽 7—0
(7回コ)

チーム2017

選手権大会1回戦は、昨年度準優勝の私立高校との

対 九里学園 0—7
(7回コ)

対 高畠 10—1
(7回コ)

置賜地区第3代表として県大会へ

◆2次予選

対 九里学園 0—7
(7回コ)

対 高畠 10—1
(7回コ)

置賜地区第3代表として県大会へ

◆1回戦

対 羽黒 0—2
(7回コ)

秋季県大会

3年生9名が抜けて、18名となつた新チームは、3年ぶりに秋の県大会に出場することができます。しかし、新チームも、勝負所の弱さや野球そのものに関する知識の欠如、さらには、基礎体力や野球に対する情熱が乏しいのが現状です。

技術以前の問題で、これら一つひとつ多くのことを経験していくなければならないと感じております。ただ、この時期に県大会を経験できたことは、来年に向けて大きな収穫であったと思います。これから冬の期間を活用し、春には身心ともに大きくなつた姿を見せたいと思います。

学年代表幹事

卒業年	氏名
S 44	布川 裕行
S 45	高梨 衛
S 46	永井 隆
S 47	遠藤 敬
S 48	宇津井 信彦
S 49	池内 正一
S 50	千葉 和男
S 51	栗林 雄二
S 52	大河原 敦
S 53	井上 恭男
S 54	大越路 可
S 55	後藤 利明
S 56	山田 和男
S 57	
S 58	中沢 秀隆
S 59	吉田 直史
S 60	菅原 浩
S 61	後藤 篤也
S 62	井上 武司
S 63	村田 和彦
H 1	鈴木 雅満
H 2	渡部 晃央
H 3	高橋 学
H 4	地主 忠亮
H 5	吉田 大治
H 6	菊地 芳宏
H 7	井上 友和
H 8	
H 9	遠藤 謙司
H 10	加藤 法弘
H 11	齋藤 慎太郎
H 12	高橋 優子
H 13	鈴木 宏治
H 14	嘉藤 之浩
H 15	佐藤 勝治
H 16	戸田 恵
H 17	辻 琢允
H 18	淀川 竜也
H 19	菅野 英志
H 20	福嶋 なつみ
H 21	土屋 岳
H 22	井上 尚人
H 23	小関 直紀
H 24	神保 智貴
H 25	歌丸 裕彬
H 26	渡部 晃史
H 27	土屋 賢

夏の選手権大会開会式直後に、本県各高等学校で野球部顧問をされている興讓館野球部の先輩方から激励をしていただきました。私自身、これまで経験のないことで、先輩方の後輩に対する熱い思いに感激をさせていただきました。本当にありがとうございました。O.B.の皆様や多くの方々の声援が、野球部員の大きな力となっています。改めて感謝申し上げます。今後とも、ご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い致します。



最後に・・・

いただいております。重ねて、御礼申し上げます。

さらに、日頃よりO.B.

の皆様には、各大会の応援

(はるばる新庄球場まで足

をお運びいただいた先輩も

いらっしゃいました)や練習試合等に駆けつけて頂き

ありがとうございます。また、物心両面にわたり多くのご支援を頂き、誠にあり

がとうございます。O.B.の

皆様や多くの方々の声援

が、野球部員の大きな力

となっています。改めて

感謝申し上げます。今後と

平成28年度米沢興讓館高等学校野球部名簿

監督:多田貞春 部長:小林健也 顧問:五十嵐雄大

学年	氏名	出身校	学年	氏名	出身校	学年	氏名	出身校
1 3年	安達稜太	米沢7	2年	山口暢大	米沢3	1年	川崎李成	米沢2
2 3年	島貫弘成	川西	2年	鈴木耕太朗	川西	1年	後藤旭陽	米沢6
3 3年	富取俊馨	南原	2年	山木大輔	高畠3	1年	村上昂輝	米沢5
4 3年	湯村慎基	沖郷	2年	鈴木翔太	米沢2	1年	藤橋葵	米沢1
5 3年	伊藤真至	米沢2	2年	高橋佳介	川西	1年	齋藤匠	赤湯
6 3年	佐藤航大	米沢2	2年	遠藤匠	米沢2	1年	佐藤豪郎	米沢3
7 3年	中山雄太郎	米沢4	2年	齋藤妙子	高畠4	1年	我妻大誠	米沢4
8 3年	我妻綾香	米沢4				1年	小笠原空	米沢1
9 3年	梅沢謙吾	米沢5				1年	加藤嶺雄	南原
10						1年	鈴木雅宏	米沢5
11						1年	高橋春香	米沢4

平成28年8月15日に開催された、OB戦の案内を掲載させていただきました。

今後も、同様の要項により、継続開催を企画しております。主旨に賛同いただき、OB多数の参加をよろしくお願い致します。

平成28年度 米沢興譲館高校野球部OB戦について

盛夏の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、8月15日に毎年恒例となっております興譲館高校野球部OB会総会及びOB戦が行われます。OBの皆様におかれましてはご多忙の中かと思いますが、白球を追っていた青春時代を思い出し、世代を越えた交流ができればと考えております。つきましては同級生、先輩、後輩お誘いあわせの上参加いただければと思います。

内 容

午 前：1・2年生との試合（大学生の方を中心参加いただけます。）

午 後：OB同士の試合（1打席のみ、守備のみなどの参加も可能です。）



日 程

9:00 VS 1・2年生 プレイボール

12:30 参加者集合（チーム分け）

13:00 開会行事



1. 開会のあいさつ

2. OB会長あいさつ

3. 現役選手あいさつ（新チーム主将）

4. 記念品贈呈

13:30 始球式（OB会長）

OB戦

16:00 閉会行事（記念写真撮影）



18:15 OB会総会 於：サンルート米沢（是非ご参加ください）

参加を希望されるOBの方は下記幹事までお電話、ハガキ、メール等を通じて①お名前②卒業年度をご連絡ください。なお、参加料は徴収いたしませんが、毎年審判、補助役員をしてくれる母校後輩に試合球を贈呈しています。つきましては試合球代として1人500円ご協力をいただければ幸いです。

平成28年度OB戦幹事

佐藤 勝治（平成15年卒） 電話：070-5448-3227 メール：katuharu3@di.pdx.ne.jp

住所：992-0031 山形県米沢市大町5-3-30

福島なつみ（平成20年卒）

電話：080-5086-1306

歌丸 裕彬（平成25年卒）



事務局より

平成28年度 米沢興譲館野球部OB会総会

平成28年度のOB総会は、去る8月15日(月)、恒例となりましたホテルサンルート米沢で開催されました。

平成27年度事業報告及び収支決算報告が行われ承認されました。役員改選後、28年度事業計画及び予算案が上程され、全て承認となりました。新役員体制の下、今後ともOB会活動が充実したものとなる様、頑張りたいと思います。年に一度の総会に、多くの会員が集えるような会となります様、事務局として運営していきたいと思います。

平成28年度 予算書

自：平成28年7月1日 至：平成29年6月30日

単位：円

一般会計

収入の部			支出の部		
科目	決算額	摘要	科目	決算額	摘要
前年度繰越金	187,892	郵貯 76,966 信金 110,926	総会費	250,000	8月15日 ホテルサンルート米沢
維持会費	750,000	1口 5,000 150口 目標	総会準備費	160,000	総会室内 出欠葉書等 総会資料等印刷 記念写真郵送等
総会会費	200,000	総会出席者 40名 目標	激励費	25,000	昨年同様
卒業生入会金	27,000	H28年度 卒業生 9名	遠征支援費	100,000	春遠征支援
預金利息	108		会報発行費	150,000	会報印刷費 原稿依頼費用 会報発送費等
			OB連合会関係費	42,000	昨年同様
			役員会議費	50,000	役員会 年2回予定
			事務用品雑費	70,000	封筒作成・インク代 その他事務用品等
			特別積立金	100,000	特別会計へ
			郵便為替手数料	12,000	郵便為替払込料 振替為替用紙作成料含
			予備費	206,000	
合計	1,165,000		合計	1,165,000	

特別会計

単位：円

収入の部			支出の部		
科目	決算額	摘要	科目	決算額	摘要
前年度繰越金	1,257,371		次期繰越金	1,357,500	①
特別積立金	100,000	一般会計より			
預金利息	129				
合計	1,357,500		合計	1,357,500	

卒業生貸付金(2口)

単位：円

H22年度卒業生			100,000	
H23年度卒業生			98,000	
合計			198,000	②

特別積立金+卒業生貸付金 次期繰越金 1,555,500 (①+②)



Baseball



監事 安達 治雄



上記、収支決算について帳簿等を監査の結果、その内容は正確であり適正であったことを認めます。

平成28年7月16日

県内各地でOB会員の方々が野球指導にたずさわっておられます。御紹介欄

米沢興譲館野球部OB会員 野球部関係者 (平成28年11月25日現在)

卒業年	氏名	赴任校
S49	池内正一	山形工業部長
S46	高橋憲治	工学院大学付属高校
S52	船山仁	埼玉県立春日部工業高校
S63	多勢俊二	宮内中学校
H4.3	地主忠亮	米沢五中
H5.3	木戸拡	新庄市立萩野学園
H5.3	吉田大治	東桜学館高校
H6.3	小林健也	米沢興譲館高校
H8.3	安達心	赤湯中
H9.3	遠藤謙司	長井高校
H9.3	松下尚樹	神町中
H12.3	丸山信輔	高畠高校
H12.3	吉川和宏	高畠中
H14.3	石黒修平	米沢一中
H15.3	佐藤勝治	米沢東高校
H16.3	遠藤彰秀	東京都昭島市立瑞雲中
H16.3	戸田怜	東桜学館高校
H17.3	笹木覚	鶴岡南高校野球部
H19.3	井上啓	横浜隼人高校
H20.3	福嶋なつみ	寒河江高校
H21.3	土屋岳	米沢商業高校
H22.3	安部慎也	米沢三中

現在 情報収集中です。

情報があれば、事務局 井上 恭男まで

メールアドレス yasuo830@beige.plala.or.jp

貴重なご寄稿をいただき
ましたOB会員各位に深く
感謝したいと思います。
事業報告として、8月15
日に実行委員の方々の協力
の下、OB戦を開催するこ
とができる、その折の模様も
この会報でご紹介できまし
たことうれしく思います。
来年も同様の要項で開催し
たいと考えておりますの

P.S 現在事務局の把握でき
ているOB会員様所在地は
500名を越えております。
今後、資料整備に精度を
あげて行きたいと考えてお
ります。

おかげさまで、今年度も
会報を予定通り会員皆様
にお送りすることができま
した。

で、奮って参加していただき、併せて、総会で旧交を
温め合っていただきたいと
思います。

編集後記

平成27年度 OB会会費納入者

(平成28年6月30日現在) (50音順)

5,000円
大場善次郎
小野裕介
川村博人
小関優子
後藤利明
小林徳勇
古山陽佑
近野洋一
齋藤勇
齋藤隆志
佐藤勝治
佐藤隼平
鈴木利実
鈴木力雄
情野亮
添川清貴
園田直子
高橋廣
高山忠
武田昌子
堤和司
長谷川吉郎
長谷部大典
村山晃
山川広治
山田和男
山村嘉弘
渡部邦夫
10,000円
駒形衛
酒井功
笹木覚
佐藤茂
佐藤広吉
佐藤宏
島貫昌博
鈴木四朗
鈴木雅満
高梨衛
高橋憲治
高橋昌義
武田忠一
田中久雄
二宮和郎
廣居康夫
山村寿雄
横沢賢一郎
吉田大治
我妻弘一
25,000円
菅野武巳
20,000円
大武清夫
小川洋
川野部雄二
木村尚武
菅原浩
渡辺孝一
15,000円
小野隆夫
高野譲
10,000円
安達治雄
荒澤芳治
五十嵐俊隆
伊藤良久
井上寛
井上恭男
岩間嘉昭
梅津伊兵衛
遠藤敬
大越路可
尾形精一
小野修
木戸拡
栗林雄二
桑島敏行
5,000円
池内正一
池村義人
伊藤亮平
井上英雄
今井文雄
宇津江信彦
江川栄助

以上のように、平成27年度
の維持会費は、6月30日現在、
79名の方から70万円頂きました。
なお、お忙しくてお忘れになつていらした方は、改めて
年会費納入振込用紙を同封させていただきましたので、平

成28年度維持会費として
(複数口大歓迎)
会運営の円滑化のために会
費納入の件、よろしくお願い
申し上げます。

野球部OB会役員紹介

役員名	氏名	卒業年
顧問	駒形衛	S25
会長	小野隆夫	S34
副会長	高野譲	S29
	遠藤敬	S47
兼事務局長	井上恭男	S53
	栗林雄二	S51
	荒澤芳治	S54
	大越路可	S54
事務局補助	我妻弘一	S61
	吉田大治	H5
	佐藤勝治	H15
監事	安達治雄	S33
	斎藤隆志	S42